



フラを通じてたくさんの人を笑顔に

三上史恵さん(持田・62歳)

ハワイでは文字を持たない時代に神への信仰の表現として存在し、現在では娯楽として日本でも多くの人に親しまれているフラ。今月はフラの楽しさを広めている行田市フラダンス連盟フラガールズの三上史恵さんを紹介いたします。

大学で音楽の教員をしていた三上さんは、行田音楽家協会の一員として参加したレインボーフェスティバルでフラの舞台を見て興味を持ち、平成13年に行田フラクラブに入会。自分自身が楽しむための趣味としてフラを習い始めましたが、数年後、全国的なブームになり生徒が増加し、教室が増えたため、その時師事していた先生から新しくできる教室の指導を任されることになりました。今では、市内の複数の公民館のフラサークルやクラブの講師を務めるなど、忙しい日々を送っています。三上さんは「趣味として楽しく続けてもらいた



めに家庭を第一に考えてもらうこと、振り付けを間違っても恥ずかしくならずに笑って踊り続けることなど、誰もが気持ちよく練習できる雰囲気づくりを心掛けています」と指導にあたっての細かな気遣いについて話してくれました。また、自身のフラの技術を向上させるためにここ数年ハワイでの研修に参加しているという三上さん。「ハワイの先生とともにフラの曲にまつわる場所を巡ったり、曲の中で歌われている植物を実際に見てみたりしました。その他にもフラのコンペティションの最高峰であるメリー・モナーク・フェスティバルを見学しました。とにかく、フラ漬けの毎日でした。『本物』を知ることが楽しいです」と充実した表情で振り返ります。

4月29日には、三上さんが教えている生徒約60人が発表を行う第5回記念ナープアアロハハワイアンフェスティバル、8月27日には三上さんの友人らが参加するハワイアンフェスティバルin行田が、それぞれ「みらい」文化ホールで開催されます。発表会に向けて指導に熱が入る三上さんは「みなさんに本物の踊りを広め、正しく楽しく踊ってもらいたい。また、平成21年から始めたタヒチアンダンスの良さも広めていきたいですね」と今後の目標を語ります。これからもフラやタヒチアンダンスの魅力を伝え、たくさんの人を笑顔にしてくれることでしょう。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

- | | | | |
|-----------------|------------|----------------|------------|
| 俳句 | 南河原 今村 文女 | 竹の秋茶道に裏と表あり | 荒木 藤田 明枝 |
| 夫病みて独りに広し春炬燵 | 谷郷 大谷 峯生 | 合格子第一声の弾みをり | 荒木 手島 一海 |
| 春の陽や生涯土を愛でて老ゆ | 清水町 斉藤 文子 | 野の道の春を探して一万歩 | 佐間 栗田 恵子 |
| 豆を撒く夫の声の遠慮がち | 棚田町 春田 枕流 | 連山をはべらせてをり雪の富士 | 持田 伊藤 洋子 |
| 潮の香の溢れ来たるや焼柴螺 | 矢場 高田みつ子 | 補聴器の老老介護春の月 | 長野 石川 文子 |
| 洋館の高窓掠め寒鴉 | 富士見町 森 節子 | 菜の花の奥も菜の花忍の里 | 城南 橋本千枝子 |
| つくしんぼ探して利根の土手歩く | 城西 新井 禮子 | 春雷や卒寿野太き声を出す | 荒木 藤田 栄之 |
| 白梅につがいの鳥のたわむれて | 富士見町 鈴木スイ子 | 花見旅三駅前より下車したく | 須加 須加 信子 |
| 春立つや夕べの豆を踏み付けて | 荒木 森田 静 | 春彼岸新仏壇を設えて | 谷郷 柳瀬 久 |
| 日脚伸ぶ古新聞を束ねけり | 持田 二瓶 弘子 | 節分や年の数ほど豆喰えず | 桜町 青木 良子 |
| 年間へば迷う児の指春うらら | | | (三沢 一水 監修) |

はじめまして



平成28年6月生まれのお子さんを募集します

○4月3日月～28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、5月2日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成28年4月生まれのおともだち ★★★



茂木 嘉輝ちゃん(血尾)
平成28年4月15日生まれ
父・秀和さん 母・佐知子さん
「健やかにそしておくまへへ」



棚澤 菜々美ちゃん(谷郷)
平成28年4月27日生まれ
父・良太さん 母・梢さん
「すくすく元気に成長してね」



小林 湊ちゃん(前谷)
平成28年4月26日生まれ
父・梨さん 母・晴菜さん
「これからも元気にすくすく大きくなってね」



北岡 由愛ちゃん(荒木)
平成28年4月25日生まれ
父・清志さん 母・理恵さん
「由愛の笑顔は 家族皆の幸せ」



堀 綾乃ちゃん(長野)
平成28年4月27日生まれ
父・智一さん 母・景子さん
「毎日ニコニコ 笑顔をありがとう」



尾形 羽紅ちゃん(持田)
平成28年4月23日生まれ
父・政秀さん 母・瑞世さん
「はっくん、だいすき」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社三八染工場

伝統を守りながら、染物の新たな魅力を伝える



会社プロフィール

代表取締役 榎本 晃三
【事業内容】染色業、デザイン業
【住所】城西4-3-8

大正5年に創業し、約100年にわたり行田で染色業を行っているのが株式会社三八染工場です。
会社の名前は唄の師匠だった初代常磐津三八からとったもの。3代目三八が染色を始め、現在は6代目となる瀬藤貴史さんが技術を受け継ぎ、今では少なくなってきた手作業による染色に取り組んでいます。タオルや手ぬぐい、のぼり旗、着物などあらゆる布製品を染めることができ、日用品から美術品まで幅広い注文があるそうです。瀬藤さんは「反応染めや型染め、友禅染めなど日本の伝統的な染色技法で染めています。お客様の要望に応じ、デザインから仕立てまで承ることもできます」と説明してくれました。他にも、同社では割れてしまった湯飲みや皿といった器の修復や、古くなり変色してしまった髪飾りなどの修復も行っています。思い入れのある品を持ち込む人も多く、割れてしまった器が漆と金で美しく修復されるとあって好評だそうです。

また、伝統技術を後世に残すための取り組みも積極的にを行っています。大学や専門学校からの依頼で、染色材料の研究や文献に残る技法の再現に協力している他、高い技術力を見込まれて染織品の復元研究も行っています。さらに、多くの人に伝統的な染物に興味を持ってもらうと、友禅染めで色鮮やかな美術作品を作ったり、地域に残る染型紙の繊細で美しい図柄をモチーフにTシャツのデザインをしたりとこれまでに無い方法で魅力を伝えていきます。
今後について瀬藤さんは「伝統技術を継承しながら、今の生活スタイルや好みに合わせた商品の提案をしていきたいです。また、染色を含む日本の伝統技術に触れてもらうような機会も増やしたいです」と語ってくれました。これからも同社は受け継がれてきた伝統を守りながら新たな染色の形を追求し、私たちを魅了してくれることでしょう。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。